International Institute of American Studies

同志社大学アメリカ研究所　春季公開講演会

同志社大学志高館SK119

6月30日(金) 16:40 - 18:10

アメリカ美術の世紀

第二次世界大戦後、アメリカは政治や経済だけではなく、美術においても世界で中心的な地位を占めるようになったと言われます。美術の都がパリからニューヨークへ移動したという現象は、実際にはどのように起きたのでしょうか。ヴェネツィア・ビエンナーレでアメリカ人として初めてグランプリを受賞した美術家、ロバート・ラウシェンバーグの活動を通して、この地政学的な転換の背景を探ります。

池上 裕子 氏

神戸大学大学院国際文化学研究科 准教授

国際基督教大学卒、大阪大学文学研究科修士課程修了、イェール大学美術史学科博士課程修了(Ph.D.)、ニューヨーク近代美術館非常勤講師、学術振興会特別研究員(P.D.)、大阪大学グローバルCOE特任助教を経て現職。2016年『越境と覇権』でサントリー学芸賞受賞。

主な著書

- "The Great Migrator: Robert Rauschenberg and the Global Rise of American Art" (The MIT Press, 2010)
- 『越境と覇権：ロバート・ラウシェンバーグと戦後アメリカ美術の世界的台頭』（三元社、2015年）
- 『油彩への衝動』（共著、中央公論美術出版、2015年）
- "International Pop" (共著、Walker Art Center, 2015)、
- "Robert Rauschenberg"(共著、The Museum of Modern Art, New York, 2016)

来聴歓迎
予約不要

同志社大学アメリカ研究所
075-251-4900
ji-amekn@mail.doshisha.ac.jp